

かつて「東京の晩秋」といえば、11月中旬から11月下旬だったように思います。しかし近年は、東京の晩秋の風景は12月上旬から中旬に最も美しくなります。簡単に言えば、「東京の冬はどんどん短くなっている」ということです。気象庁の定義では、「最低気温が0℃以下になった日」が「冬日」ですので、その基準で見ても、東京の冬はほぼ「0日」となってしまいます。

小石川植物園の晩秋の風景も、毎年12月に入ってからが美しくなります。この日は閉園まぎわに入園したので、ほとんど人はいませんでした。この写真だけを見ると、とても東京の中心部とは思えない、美しい森の風景でした。

(2024年12月中旬／文京区小石川植物園)

